

観自在

弘長寺寺報
第十八号
平成二十一年一月

この不況、仏教徒として

どうとらえるべきか

(今こそ仏の教えに学びたい)

弘長寺住職 森田裕光

明けましておめでとうございます。
平成二十一年の年が明けました。

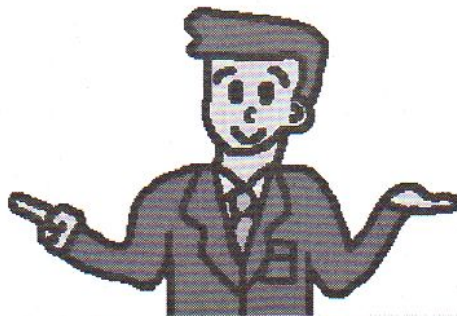
世界同時不況で明るい兆しはないのですが、日本人はあの敗戦後の絶望的な状態から立ち直り、世界でもトップクラスの繁栄国となり得たエネルギーを持った国民です。派遣社員の方はお気の毒です、でもこれくらいでマスクミの如き大騒ぎをすべきではないような気がいたします。(昨年の今頃、ガソリン代で大騒ぎをしたのが、今はウソのようです)

今の状況は、繁栄をし過ぎた反動が来ていると思っております。

日本で一年間に捨てられる食べ物の量は約二千万トン(平均的な食事で約五千二百万人分)、そのうち半分が家庭の台所から、もう半分が食産業によるものです。

国連WFP(平成十九年)発表「数字が語る世界の飢餓」に、「世界では、五秒に一人の子どもが飢えに関連する病気で命を落とし、飢えと貧困によって毎日二万五千人の人々が亡くなっている。」と記述されています。

よく考えれば今まで世界中の餓死者など目もくれず、繁栄・飽食大国を謳歌していたことが逆に異常だったのです。文明や経済の発達はこれでよしとの到達点が無く、限らない効率的な便利さを求め続け、人間をぜいたく・横着にさせ、個々の絆を衰退させ、人間性を奪っていく性質を持っています。



仏教は「正見」という見方革命を教えています。

欲にまかせた見方ではなく、仏の息子としての正しい見方(仏教的プラス思考)をせよとの教えです。

ボトルに半分残った酒を、

A 「もう半分しかない」

B 「まだ半分も残っている」

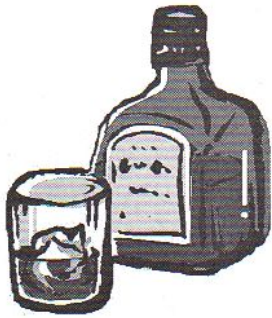
という二つの見方では「幸福感」が全く違ってきます。

Aは「エイ、キシヤが悪い、サツサと飲んでしまおう」との思いが読み取れます。

逆にBの思いには、「有り難い」という感謝の気持ちが入められていて、残りの酒も少しづつ大事に味わいながら飲むことが予想できます。

Bの見方こそが、仏教的なのです。

戦中戦後の貧しく困難で壮絶な時代を思えば、例え大不況が来ようとも「まだ…」という感謝(正見)を忘れずに生きることが、仏教徒たりうと思っています。



新しい年を迎えて

「信仰」で結ばれる
菩提寺と檀信徒

弘長寺護持会
会長 武田民三

新しき年の新しき月の新しき日、平成二十一年己丑の元朝は雪で迎えることとなりました。

新年明けましてお目出度うございます。

この歳が弘長寺護持会の皆さまにとりまして、健康で幸せの多い一年で有りますよう、心からお祈り申し上げます。

さて昨年を振り返りますに、いろいろな意味で誠に変化の多い世の中であつたように思われます。

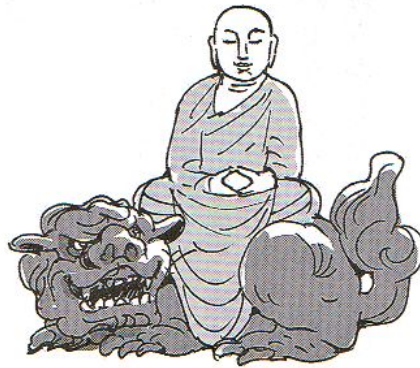
菩提寺にとりまして、十世天祐大聖和尚さまがご遷化になり、檀家一同、はかりしれない深い悲しみに包まれました。
東堂さまの偉大な「功績」と、檀家に対する深い「愛念」に、改めて感謝を捧げさせていただきます。

平成二十年度の第二宗務所

檀信徒研修会は、前年に続いて篠原鋭一老師によるご法話でした。

「菩提寺と檀信徒が、信仰でしっかりと結ばれた関係作示くださいました。」

それは今や、政治や経済の力だけでは世の中がどうにも治まらなくなっているからだと思います。



戦後、アメリカの統治下で、日本の農業は「農地解放」の名のもとに自作農の創設を基本とする農地法が制定されましたが、工業振興と輸出政策による国力増強策の見返りに、あらゆる食料を輸入にたよる姿となり、結果として米価維持のためのコメ減反を余儀なくされ、先祖伝来の美田は荒廃してしまいました。
食料自給能力の極度の低下により国民の生命をも脅かす

現実の到来に、今や農地法の改正や減反制度の廃止を打ち出そうとしている日本の農政。

そして経済界といえ、八十年前の昭和の大恐慌以来のいわゆる「百年に一度の経済危機」が、米国の「リーマン・ショック」と称する金融資本主義の崩壊とともに、戦後最高ともいわれた好景気時代が、消え果てようとしています。

そもそも金融資本主義なるものは見せかけの経済であり、実質資本の裏付けもない、虚虚实実の駆け引きで成り立っている。

新しい記憶では「ホリエモン」と呼ばれ、欲の権化と化した青年の出現がありました。

よく不況の年は神社や寺院の参拝者が多いといわれますが、御利益信仰ばかりではなくて、今生かされている自分の生命を、次々と受け継ぎ授けていただいた先祖代々の仏さまに感謝し、その先祖代々の仏さまをご供養していただく菩提寺とのご縁を大切にしようとして篠原老師のご教示であります。
朝、眼が覚めたら「ア！生かされています！ありがとうございます」と感動し、新生し

た自分に感謝しつつ、今日一日を生き切ることを教えていただきます。



裕光方丈さまは「今を生きることの大切さ」と、寺院運営の基本は「寺檀和合」に在ると常に仰っていたと思います。

ありがたいことだと思いません。
仏教は「生きていく間に仏道を修行する教えである」とも示されています。

菩提寺を護持することこそが私ども檀信徒の最大の使命であることを再認識し、今年も檀信徒の皆さまと共に、心を一つにして菩提寺興隆のために、護持会の運営に対し、より一層のご理解ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

合掌

お知らせ

お願い

●阿弥陀様の横に「身代不動尊像」を御喜捨いただきました。

●施主は、小松地区・屋号西岸本幸夫氏。
為 瑞雲良道信士靈位菩提。

寺報八号で紹介して、住職が御身ぬぐいをしようとして、阿弥陀様の高い台座に登ったとたんに、腐った台座が抜け落ちて、もう少しで命を落とすところでした。

阿弥陀様の膝元に古い不動尊像があり、それに手がかかって命拾いをしました。住職の身代わりとなり、落ちてバラバラになった仏像は、魂抜きをして処分をし、そのまま復元が中々叶わぬ状態でした。

お亡くなりになった岸本氏のお父様は、お不動様のお陰で奥様と結ばれた有名なエピソードをお持ちの方で、不思議なご縁となりました。名前を「身代不動尊像」と命名しました。



●護持会は本年、「役員改選」の年です。

●各地区の地区委員さんを、総会までに選出する準備をお願いいたします。

●今年の施食会には、大聖東堂様の一周忌をおこないます。(したがって法話はありません)

●導師は、本寺の松江洞光寺様をお願いする予定です。

●本堂耐震修築改築検討委員会の仮報告

●本堂耐震修築改築検討委員会を九月に開催しました。

●(座長は住職) 具体的な方針を資料を使って綿密に討議すべく、特別小委員会を設けることを決め、十二月に特別小委員会を開催しました。

●左記の検討事項を一月三十一日の本検討委員会に提案する予定です。(特別小委員以外の本検討委員会委員全員には、既に手紙にて検討事項をお知らせしてあります)

●本来なら本委員会でするべきですが、間に合いませんので、一応現段階での方向性をお知らせし、検討であります。なおあくまでも、ご了解下さい。

★検討事項

●本堂には素晴らしい材料が使用してあるので、本堂を新しく改築せず、修復する。

●本堂は、一般住宅と違って寺社大工による特殊な建物であり、寺院建築の知識・経験・実績が豊富で、本堂耐震建築にも卓越した知識を持った業者に見積もり・設計を依頼すべきである。

●無料調査を請け負った(株)カナメにお願いをしてもよいのではなないか。(寺院建築に多くの実績を持つ、最近浅草の浅草寺を手がけている)

●下請けは、檀家の工務店・大工を必ず使っていただく。

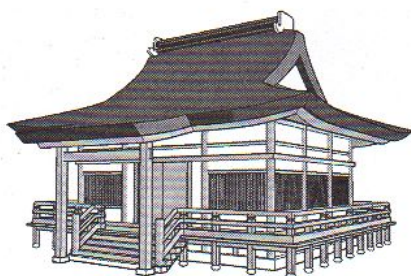
●本堂の瓦はまだ新しいのでそのまま使用した上で、屋根重量を軽減する対策をとる。

●同時に開山堂を改築すべきである。

●緊急を要するのは事実だが、檀家の負担金が、阿弥陀堂・本葬と続いているので、しばらくはプランクがある方が望ましい。

●本委員会の時に、ただ提案するのではなく、(株)カナメの担当者をお寺側の要望に沿った見積もりを作成していただくように依頼した方がよい。

●その見積もりを確認した時点で、検討委員会を解散し、検討事項を護持会に上程する。



●新しく墓地を造ります

●本堂前の新墓地十四区画がほぼ満杯となりました。お寺に空き墓地が無いのはさみしいことです。

●池田団地の墓地も満杯でありますし、このご時世ですから、松江市が墓地を近くに造る予定も全くありません。

●又、当山にとつても檀家が増える可能性も少ないということ、新しく墓地を作成することに致しました。

(区画数・永代使用料未定) 場所は奥の駐車場です。(元寺族・森田久美子個人名義の土地・現在はお寺へ喜捨) 代替駐車場を確保するため、お寺の隣(宍道湖側)の田(梶田寿雄氏名義)を、森田久美子名義の田と交換していただくことになりました。

●本年末か、来年初めには募集をかけたかと思っております。

●本堂前の新墓地が一区画だけ空いております。(未使用) 最高の場所ですので、お求めをお考えの方はお早めにごうぞ。(永代使用料四十万円)

●盆棚経

●盆棚経は、久戸地区まで終了しました。

●今年は大森からスタート、横見―大野―菅原―和名佐―大谷―柳井―宍道―弘長寺―鏡と廻ります。

●いつものように廻れるところまで、葬儀が出来た場合は葬儀優先です。

本山団体参拝ご案内

● 今年 は 総持 寺 様 の 番 だ す。

● 本 山 と 草 津 温 泉 で 宿 泊 : 二 泊 三 日 の 旅 だ す。(羽 田 往 復) 七 年 に 一 度 の 御 開 帳 と な る 「善 光 寺 参 拝」が 盛 り 込 ん で ご ざ い ま す。

● 早 朝、本 山 の 本 堂 で お 腹 に 響 く 木 魚 や 鐘 の 音 と、多 数 の 雲 水 に よ る 読 経 の 厳 肅 な 雰 囲 気 を 体 験 し て み ま せ ん か。

記

◎ 期 日 平 成 二 十 一 年 五 月 十 二 日

(火) 十四日 (木)

(二泊三日)

◎ 募 集 人 員 百 五 十 名

◎ 会 費 八 万 三 千 円

◎ 申 し 込 み 方 法

◎ 申 し 込 み 金 一 万 円 を 添 え て 弘 長 寺 まで お 申 し 込 み 下 さ い。

◎ 申 し 込 み 締 め 切 り 四 月 十 日

◎ コー ス

・ 一 日 目

(出雲空港発七時四十分) | 相田みつお美術館 | 総持寺三松閣泊まり研修

(三時起床・坐禅・法話・各家先祖供養等があります)

・ 二 日 目

鬼押出し園 | 草津温泉資料館 | 草津温泉 (泊)

・ 三 日 目

白根山湯釜 | 善光寺参拝

(ご開帳) | (出雲空港着

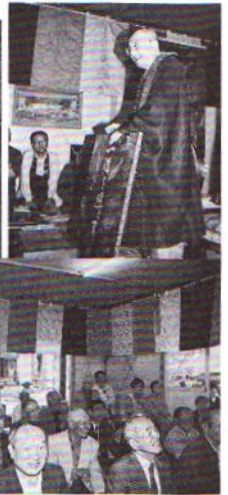
十九時五十五分)

第二教区護持会

日帰り研修旅行

● 二 年 間、第 二 教 区 護 持 会 の 担 当 寺 院 と し て お 世 話 を し ま し た が、間 も な く 任 期 が 終 了 致 し ま す。

二 年 目 の 研 修 は 日 帰 り と 決 め ら れ て い ま し た の で、「世 界 遺 産 先 取 り 研 修」と 名 づ け、十 月 十 日 (金)、鳥 取 県 倉 吉 市 に あ る 三 徳 山 三 仏 寺 へ 参 拝、二 十 世 紀 梨 館 に て「禅 を 聞 く 会」無 着 成 恭 老 師 の 講 演 拝 聴。 参 加 者 三 十 五 名。



大般若転読祈禱大法要

を行います

● 昨 年 に 続 き、第 二 回 目 の 大 般若 転 読 祈 禱 大 法 要 を 行 い ま す。 四 月 十 九 日 (日) 午 後 二 時 以 前、法 話 は 住 職 が 行 い ま す。 近 づ い た ら 詳 し い 案 内 を お 出 し し ま す。

幸せの帽子

すべての人が 幸せをもとめている しかし幸せというものは そうやすやすと やつてくるものではない 時には不幸という帽子をかぶってやつてくる だから みんな逃げてしまうが 実はそれが幸せの正体 だったりするので わたしも小さい時から 不幸の帽子をいくつも かぶせられたが 今から思えば それがみんなありがたい 幸せの帽子であった それゆえ 神仏のなさることを 決して怨んだりしてはな らぬ

仏教詩人

坂村真民

(平成十八年他界)

住職は考える

宗派とは何か？ ①

く敢えて

仏教のタブーに挑む

申し上げるまでもなく、
仏教を開かれたのはお釈迦
様です。

寺報「創刊号」の仏教豆
知識にも書いています。が、
世界には二通りの宗教があっ
て、一つは一神教、もう一
つは多神教です。

水や緑が豊富なモン・ス
地帯で発生したのが、多
神教です。

逆に厳しい砂漠の中で生
まれたのが一神教（ユダヤ
教）です。

水や緑を求めて旅を続け
ながら、神様（ヤハウエ・
エホバ）を信ずる代わり
に、

ユダヤ教を元に、神の使
いであるキリストによるキ
リスト教や、預言者モハメッ
ドによるイスラム教が発生
していきま

一神教の特徴は、唯一の
神のみを信ずるために、他
宗教に対し、排他的・暴力

的構造を有していること
です。つまり神の御名のも
簡単。に争い、殺人も許さ
ます。

特徴は、寛容で友好的であ
り、争いの生物は中級には
が全争いの殺生は戒めを持
てあると、厳しです。戒め
か点では、一神教の方はい
かに上でしよ。の強さは

の機根に、お釈迦様が相手
た、ことが多様。の教えを
て、います。



「一神教」に比べて、多神教
は、お釈迦様が相手
た、ことが多様。の教えを
て、います。

おっしゃっています。多
から、日本の宗派（十三宗）
があるの宗派も領け

大雑把に分けると、自力
曹洞宗は自力門である。禅
門と他力門が分ける。自力
宗の開祖道元は、我が宗
は、お釈迦様の教えを忠実に
受けたから、宗派ではない。法
な、どうして宗派を言えと
いうなら「仏心宗」である。

宗祖の言に逆らったのでし
と、か、私には「仏心宗」に
て、いたただきたかったですね。

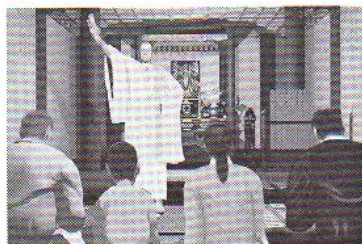
それとは、多神教で本
か、たと思いません。どの
でも、どの教でも「いよ」と
うこと

ところが宗派として別
ていくと、「何でもないよ」
では、その宗派の存在理由
（価値）がなくなるし、宗
祖の教えを拝め、この宗
様だけ、を拝め、この宗
典だけ、を拝め、この宗
行法だけ、を拝め、この宗
適法だけ、を拝め、この宗

宗派の存在理由、宗祖の
教えを拝め、この宗様だけ、
を拝め、この宗典だけ、を
拝め、この宗行法だけ、を
拝め、この宗適法だけ、を
拝め、この宗

同じ仏教なのに、よ
そうするに、よ
の宗派に属して、信
信仰を強め、教団を安定
せることが、できるから

しかし、宗派主張が極
に強まれば、一神教的
排他性が強まります。
強調し過ぎる余り、時
力と対峙し、弾圧を受け
り、宗派があるのは、ご
です。



特定の教義を主張しな
れば、存在理由がなくなる
主張し過ぎると、排他的
なり、ともすれば争いが
きる。

そう考えると、宗派とい
うのは、当に諸刃の剣な
です。実は、曹洞宗も、そ
では、争いが起るほど
至争いが起るほどまで

次号へ続く

**葬儀の達人に
なりましょう②**

けちみやく

●血脈を授けています

葬儀によってお釈迦様から代々受け継がれてきた戒法を授けて「仏のみ子」となっていた。ただ、ための大事な証明がお血脈です。中には、お釈迦様からの法の系譜が書き込まれています。埋葬時に遺骨の上に置いて下さい。

●寄り方の心得

★寄り方（通称隣保しぼぐみ―死場組）は、喪主家の遺族・親族のために諸々のお世話をする役目です。悲しみにうちひしがれている遺族に代わって喪場の諸事を引き受けます。

★一番大事な心構えは、長年お付き合いをしてきた近所の方が亡くなったことを共に悲しみ、決して大声をださず、この遺族のために今自分は何をなすべきかを考えて、いつでも動ける態勢を取っておくことです。

★遺体と最後のお別れ、悲しみの極地にある「出棺の儀式」の読経中（本葬・告別式よりむしろ悲しいのです）、台所や庭先で大笑いが聞こえたり、葬具を造るために釘打ちやノコギリで楽しそうに大工仕事をされることとがございしますが、それは入學式や卒業式当日に建設業者を呼び、式の最中に式場の工事をさせるようなものです。



遺族とすれば、一緒に悲しんでいたかどうか、もしかして近所の方は、故人が亡くなったのを喜んでるのだろうか」と疑念を抱かれるに違いありません。

儀式の妨げとなるような行いをするのは慎みたいものです。～あまり大きな声では言えませんが、本葬前、こんな時に限って冗談を言って相手を笑わそうとするお寺様がおられたりして困ることもあります。～

★そして、住職がお手伝いをお願いする時（お別れ出棺時）には、すぐにお棺の所に行けるように準備しておいて下さい。（いくら呼んでも誰もその場におられないことがございます。）

★お別れ時の寄り方の仕事

- ・棺を移動するために、経机や法具を出棺の邪魔にならない場所に移動する。
- ・棺を部屋の真ん中に移動する。（足を縁側に向けて）
- ・別れ花を遺族の為に渡す（JA準備される事多し）
- ・喪主に「火葬認可証」の確認をしてもらう。
- ・火葬場からの帰りの人数と車の手配を喪主に確認する
- ・出棺の後、一本ワラで部屋を掃き、その後ホウキでゴミをはき出す。（前もってホウキを確認しておくこと）
- ・（ゴミを上で取らずに、縁側の外に掃き落として下さい。）
- ・掃除が終わったら、経机・法具を元に戻す。

★お布施の出し方

- ・通夜・出棺・本葬・七日法事それぞれその都度お出し下さい。
- ・出棺・本葬は喪主が忙しいので、葬儀委員長が僧侶に渡す。
- ・必ずお盆に載せて差し出すようにして下さい。

・お寺様が複数の時は、載せ替え用のお盆とで、一つ用意して下さい。（手でそのまま渡すのは、失礼に当たり、布施の精神にもとります。）

★住職の迎えは、本堂正面に車をつけ、本堂側、正玄関にお迎えに来て下さい。

わざわざ裏口へ廻り、裏玄関に来られる方がございますが、お寺の住職がコソコソ裏口から出ることはございません。



★寄り方（台所編）

- ・台所では、声を小さく。（案外式場までよく聞こえます）
 - ・お寺さん到着時には必ず「到着茶」を出す。その際には持ち帰りができるように中折りを準備して下さい。
 - ・祭壇には一膳飯（日常と反対のことをするため、割り箸なら折らずに）と重ね団子二皿。
 - ・開始直前には茶湯を入れ替える。右側砂糖湯、左側お茶ですが、先にお茶の葉とお砂糖を茶碗に入れておいてから、お湯を注ぐこと。（お湯半分）
 - ・行列直後に読経を致します。前もって五つ組の仏膳を一つ準備しておいて下さい。
- 以下次号